

辻峠

辻峠は白谷雲水峡を通るメイントレイルの分岐点である。ここから、太鼓岩へ行って帰ってくる脇道（0.23km、片道 10 分）に行くか、縄文杉のある大株歩道方面（7.6km、片道約 4 時間 10 分）と白谷雲水峡溪谷入口方面（2.6km、1 時間半）という 2 つの目的地のいずれかへと続く本道に行くかすることができる。

この峠は少なくとも 400 年以上前から使われている。宮之浦や楠川といった海岸沿いの村から内陸の山へ向かう伐採事業者にとってこの峠は欠かせないルートだった。楠川の村人達もまた、岳参りとしてこの峠を通して神聖な峰を巡礼した。岳参りは 1488 年にはこの地域で始まっていたというから、このルートはその頃からのものであったかもしれない。

太鼓岩（1,050m）は大きな花崗岩の露頭で、宮之浦岳（1,936m）、永田岳（1,886m）など屋久島内陸の山々や安房川が一望できる。太鼓岩への登山道は一方通行のループになっているので、標識に示された反時計回りのルートを通るようにしてほしい。

白谷雲水峡から来る場合、辻峠を越えて 100 メートルほど行ったところには、大きな棚のような花崗岩の下に小さな洞窟、辻の岩屋がある。突然の暴風雨などの緊急時にはシェルターとして利用できる。

辻峠から縄文杉までのルートは、初心者にはお勧め出来ないし、日帰りハイキング向けでもない。このルートを通る場合は、高塚小屋（縄文杉の近く）で一泊し、翌日戻る計画を立てる必要がある。

大雨や雪の時には、怪我やその他の災難に遭う危険性が非常に高くなる。たとえ辻峠で雪がない時でも、標高の高いところに行くと雪があるかもしれない。島の天候は急変することがあるので、適切な判断を下し、危険を冒さないこと。天候が悪い場合、装備や物資が十分でない場合、疲れている場合、経験の浅いハイカーの場合は、白谷雲水峡登山口まで戻るようにしてほしい。